

「生と死のセミナー」その2 「『生と死』を切り口とした伝道」

—高松シオン教会での取り組み—

「祝宴の家に行くよりは、喪中の家に行くほうがよい。そこには、すべての人の終わりがあり、生きている者がそれを心に留めるようになるからだ。」伝道7；2

1) はじめに

- *北陸での半世紀以上の伝道・牧会
- *ある浄土真宗の高名な僧侶との出会いによる励まし！

2) 「いのち」がこの日本で、この時代に、人々に福音を届けるための鍵の言葉、重大な切り口！

3) 「生と死」がキリストを証しする絶好の機会に！

- *92歳の父の受洗 葬式をあげてくれ！
- 96歳で召天。うらやましい死に方で！

4) 事例3 吉川三重子姉（78歳）1983年3月31日召天

*故人の証しと、葬儀に携わるキリスト者のふるまい

*葬儀が伝道の良い機会と！

*16世紀、キリシタンの時代

「キリスト教の葬儀が伝道の重要な手段であった」

5) 葬儀にあたり…牧師の説教準備において…故人のことば、書いた物は？ あかしは？

生き方、死に方、エピソード…

*「生きてきたように死んでゆく」

*日野原重明先生のことば「死は各人各様の『生の最後のパフォーマンス』であるをつくづく感じます」「生の最後のパフォーマンスにふさわしいのは、ありがとうという言葉である」
(著書「生き方上手」)

6) 伝道の最高の方法、武器、道具：人

*その人の証こそ！ どのように生き、どのように死んだか！

*一般のクリスチャンの証が！ 牧師の証ではなく…

7) 提案：あなたの証を文章に！ あなただけの証トラクトを作製しよう！ 2000字程度で！

その内容は？ 第1ペテロ3：15, 16に教えられて！

* 「むしろ、心の中でキリストを主とし、聖なる方としなさい。あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでも、いつでも弁明できる用意をしておきなさい。ただし、柔和な心で、恐れつつ、健全な良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの善良な生き方をののしっている人たちが、あなたがたを悪く言ったことを恥じるでしょう。」

①「あなたがたのうちにある希望について説明を」:

②キリストに会うまで&その後は? ビフォア・アフター!

* 第1ペテロ 2 : 9, 10

「しかし、あなたがたは選ばれた種族、王である祭司、聖なる国民、神のものとされた民です。それは、あなたがたを闇の中から、ご自分の驚くべき光の中に召してくださった方の栄誉を、あなたがたが告げ知らせるためです。あなたがたは以前は神の民ではなかったのに、今は神の民であり、あわれみを受けたことがなかったのに、今はあわれみを受けています。」

* 「あなたがたは羊のようにさまよっていた。しかし今や、自分のたましいの牧者であり監督者である方のもとに帰った。」 2 : 25

③その心は: 「キリストを主とし、聖なる方としなさい」 =キリストに栄光を帰すように!

* 「恥は我がもの、栄えは主のもの」

④「柔和な心で」: 押し付けがましくないように!

その弁明の背後に必要なことは…無言のふるまい (3 : 1)

悪や侮辱に対して祝福をもって応える (3 : 9)

⑤「恐れつつ」(「敬意を持って」): 我こそ清しというような態度ではなく

人を馬鹿にしたような、横柄な態度ではなく

他の人の信仰や習慣を非難せず、中傷せず

⑥「健全な良心をもって」: 嘘がないように。大げさでないように。脚色しない。

抑制の効いた言葉と態度で。

8) その証トラクトに盛り込むこと

①きっかけ: どうして聖書に、教会に、クリスチャンに触れたのか?

どうしてキリストを信じるようになったか?

②キリストはあなたにとって、どのような存在か? 何をしてくださったか?

③キリストを信じることによって得られた祝福、幸いは?

④あなたの愛唱聖句は?

9) 高松シオン教会での取り組み

その用い方は…

本人が証しのために利用する…名刺代わりに!

葬儀の際の式次第とともに配布・読んでもらえる最後の証しの機会!